

# 台風 19 号による作物別の事後対策情報(第 2 報)

令和元年 10 月 16 日 (水)

相双農林事務所農業振興普及部

## 1 水稲

- コンバインが入れるほ場から速やかに収穫しましょう。
- 倒伏したほ場では、刈り分けを行いながら丁寧な収穫作業を行い、泥を混入させないようにしましょう。
- 浸水したほ場では、流木やゴミ類がほ場内に残っている場合があるので、作業中にこれらを機械に巻き込まないように注意してください。
- 収穫後の乾燥・調製作業は丁寧にいき、品質向上に努めましょう。

## 2 大豆

- 停滞水は、明きょなどで早急にほ場外に排水しましょう。
- 大豆で莢が損傷した場合には、カビ粒や腐敗粒になりやすいため、必要に応じて速やかに防除を行いましょ。

## 3 野菜

- 停滞水は、明きょなどで早急にほ場外に排水しましょう。
- 収穫した野菜は、傷みが無いか良く確認しながら調製作業を行い、被害したものは出荷しないようにしましょ。
- マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいため、マルチをめくって乾燥させましょ。

### 【ブロッコリー】

- 茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょ。
- 風により茎葉が損傷した場合についても、黄化した葉等を取り除いた上で、適切な薬剤散布を行いましょ。
- 倒伏したものは、曲がりによる品質低下を防ぐため、できるだけ早く引き起こしましょ。また、畦間に追肥を行い、軽く中耕培土し、草勢の回復を図りましょ。(高温時の中耕培土は控えましょ。)

### 【ネギ】

- 茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょ。
- 風により茎葉が損傷した場合についても、黄化した葉等を取り除いた上で、適切な薬剤散布を行いましょ。
- 倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こしましょ。また、畦間に追肥を行い、軽く中耕培土し、草勢の回復を図りましょ。(中耕培土は、高温時は控えましょ。実施は薬剤散布後とし、ネギを傷つけないよう十分に注意しましょ。)

## 【ニ ラ】

- 茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょ。
- 風により茎葉が損傷した場合についても、黄化した葉等を取り除いた上で、適切な薬剤散布を行いましょ。

## 4 花き

### 【施設】

- 冠水後、施設内の排水が進まない場合は、排水用ポンプを使って強制的に排水を行いましょ。
- 停滞水排水後は根が傷んでいるため、草勢回復まで晴天時には寒冷紗などで被覆し、天候回復後の強日射による葉やけ・しおれを防ぎましょ。
- 土壌が過湿状態となっているため、マルチの裾を上げ、土壌を乾燥させて根群の発達を促しましょ。
- 土壌浸食・固化、根の露出、肥料の流亡などが発生した場合は、ほ場が適湿になるのを待って、中耕、追肥、土寄せを行いましょ。
- 冠水、停滞水などで茎葉に付着した泥は、乾いて固着する前に早急に洗い流しましょ。傷んだ茎葉は取り除き、風通しを良くしましょ。
- ハウスに暖房施設を設置している場合は、換気をしながら暖房機を動かして施設内の湿度を下げましょ。
- 多湿により病害にかかりやすくなっているため、速やかに適切な薬剤散布を行いましょ。

### 【露地】

- 露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょ。
- ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、キク白さび病等の予防薬剤散布を行いましょ。
- 倒伏したものは出来るだけ早く引き起こし、曲がりによる品質低下を防ぎましょ。

## 5 日本ナシ

- 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょ。
- 大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等でとめるか、縄などでしばり傷口を接着させましょ。
- 浸水、滞水が発生している園地では、できるだけ早く排水に努めましょ。
- 枝折れ等の傷口から、病害虫の侵入を防ぐため薬剤散布を実施しましょ。

## 6 畜産・飼料作物

- 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょ。
- 家畜の姿勢、採食量や反芻などの行動をよく観察し、異常や疾病の早期発見・早期治療に努めましょ。
- 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょ。
- 収穫していない飼料用イネが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合は早急に収穫調製作業を行いましょ。
- 泥土の付いた稲わらは、腐敗やカビの元になるため利用を控えましょ。

発行：福島県相双農林事務所農業振興普及部 TEL 0244-26-1151  
農薬等の使用の際は、収穫前の日数、散布濃度について注意して下さい。